

キャッチ番組審議会からのお知らせ

2025年9月10日に「令和7年度 第1回 番組審議会」が開かれました。審議委員のお名前と会議の内容は以下の通りです。

■キャッチ番組審議委員

【刈谷市】斉藤 公人 委員／神谷 圭子 委員 【安城市】原田 淳一郎 委員／楳山 みきゑ 委員 【高浜市】神谷 均 委員／八重口 治美 委員
【知立市】鈴木 徳二 委員／宮部 ゆきえ 委員 【碧南市】荒井 秋男 委員長／河野 恵理子 委員 【西尾市】鳥居 照 委員／木下 奈美 委員

審議番組 「KATCHスペシャル 地元校徹底応援!球児の横顔2025」について(90分)

夏の甲子園に挑む地元(刈谷・安城・高浜・知立・碧南・西尾)の18校の野球部を豪華解説陣がチームを分析し、徹底取材した番組。番組では愛知大会の組み合わせも紹介した。

議 題 「KATCHスペシャル 地元校徹底応援!球児の横顔2025」番組内容について

●碧南市 荒井 秋男 委員長

企画意図と番組内容は一致していたように思う。構成も分かりやすく、好印象だった。マネージャーのエールが前半は6チームごと、後半は3チームごとにまとめられていたため、統一されていたほうが見やすかったかもしれない。90分で18チームを紹介する構成は、やや長く感じられた。市ごとに分けて、放送する方法も考えられるのではないかな。マネージャーのエールは1校ずつあるほうが、より印象に残る。解説が全体的に好意的な内容だったため、過去の成績や春の大会の結果を紹介したり、チーム力をグラフなどで可視化する工夫があるとよいと思う。

●刈谷市 斉藤 公人 委員

地元の高校が取り上げられるのは、嬉しく感じる。放送が大会の1週間前から始まることで、事前に情報を得られるのはありがたい。選手の出身中学なども紹介されると、より身近に感じられるのではないかなと思う。

●刈谷市 神谷 圭子 委員

選手が皆、同じように見えてしまうため、名前の横などに「好きな食べ物」や「野球以外の特技」といった一言が添えられていると、共通点を見つけやすく、親しみが湧くように思う。監督の話を変えた解説や、マネージャーによる「君にエール」が楽しく、チームの雰囲気も伝わってきた。「連合」や「シード校」といった言葉は、高校野球に詳しくない人には分かりづらいため、簡単な説明があると親切に感じる。

●安城市 原田 淳一郎 委員

各チームの特徴、試合日程や見どころ、放送番組の案内など充実した内容だった。ただ、90分という番組の長さは視聴者によって長い、短いと感じ方が異なる。好きな人は問題ないが、自分が応援するチームや選手の情報が知りたい場合や家族が出演する場合は、見たいところが限定されていて、やや長いと感じてしまうのでは。時間がなく必要な情報が欲しい人に、ピンポイントに視聴しやすいアナウンスや必要な情報を得やすいものであって欲しいと思った。各チーム個別に、地域や家族、監督や部長などチーム内からの期待の声などを紹介する、さらにローカルな番組を別で作ってもよいのではと感じた。

●安城市 楳山 みきゑ 委員

高校野球は、好きで見っていますが、安城市内に野球部のある高校が5校もあるとは知らなかった。知ることができてよかった。

●高浜市 神谷 均 委員

放送時間がやや長く感じられた。18校すべてを紹介するのではなく、ある程度絞ってもよかったのではないかな。野球部の過去の成績や練習方法などが紹介されていれば、より興味深く視聴できたと思う。選手個人の情報も、もう少しあるとよかった。全体的な紹介だけでなく、各校から1人を選び、その選手の1日を追うような構成も面白いのではないかな。

●高浜市 八重口 治美 委員

紹介のパターンが18校すべて同じで、少し単調に感じた。ナレーションも統一されていたため、男女で交互に担当するなど、変化をつける工夫があるとよかった。名前にフリガナがあるのは助かるが、よくある漢字でも読み方が異なる場合もあるため、すべての名前にフリガナがあるとより親切に感じる。「シード校」の決め方なども説明があると、初めて見る人にも理解しやすい。インタビューの際に選手の特徴が映像から伝わっていたのは良かった。視聴者を引き込むような前置きがあると、より番組に入りやすかった。番組の企画が、高校野球ファンや関係者に向けたものなのか、新たなファンの拡大を目的としたものなのか、どちらを重視しているのか少し分かりづらく感じた。

●知立市 鈴木 徳二 委員

高校野球が身近な人にとっては、良い番組だったと感じる。地元の人や選手の保護者、関係者が視聴し、それが広がっていけば番組の目的は達成されると思う。ただ、もう少し工夫があってもよかった。初めて見る人にも分かりやすく作られていた点はよく理解できた。

●知立市 宮部 ゆきえ 委員

昔は高校野球のファンだったので、楽しく見ることができた。学校の特色が紹介されていて、進路選択をする時期の子どもにとって参考情報となった。球児のインタビューと監督のインタビュー、練習風景とテポボよく内容が進んでいたので見やすかった。

●碧南市 河野 恵理子 委員

90分の番組構成において、紹介される高校の順番に意味があるのか分かりづらかった。冒頭で案内はあったものの、途中で今の学校が紹介されているのか、分かるようになっていないと目的を持って視聴している人にとって親切だったと思う。興味がない人は途中で視聴をやめてしまう可能性もある。高校野球といえばトーナメント表で認識する人が多いため、番組の途中でそれを挟む構成も効果的だったのではないかな。番組全体としての惹きつけが弱く、入り込みづらい印象があった。番組最後の試合日程の表も少し分かりづらかった。

●西尾市 鳥居 照 委員

各校の中心選手、注目選手や監督に焦点をあて、球児の皆様の普段の練習の姿を見ることで身近に感じられたし、同級生や知り合いなどが出ていたら、学校で話題になったのでは。親子など幅広い世代が見る番組としても、とても素敵な着眼点と思いました。欲を言えば、その高校の過去5年にわたる成績や、昨年の地区予選の記録などが学校紹介の際にテロップで表示されたり、紹介された球児の出身中学まで名前の表示とともに詳細にされたりすると、さらに見る側からすると深みが増すのではないかと感じた。

●西尾市 木下 奈美 委員

企画意図の一部は理解できるが、新たな高校野球ファンの拡大を図ることが目的であれば、地元野球部18校の紹介が同じような切り口のコンテンツが約50分続き、全体の放送尺が90分と長く、短調で間延びした印象を受けた。甲子園を目指す球児たちを取り上げることが、画面を通して高校野球をイメージできることが大切であると考えている。例えば、高校野球といったら「熱戦」「熱意」「ドラマチック」「感動」などがキーワードとして浮かぶが、それらがあまり伝わってこなかったことが残念。3年生は最後の大会であり、その重みが伝わるコンテンツ、構成を取り入れるのも一案かと思う。応援団(吹奏楽部など)の存在も重要なコンテンツなので、取り上げるのもいいと思った。